

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

地域ぐるみの青少年防災キャンプ推進事業

愛媛県

【事業のポイント】

- 地域住民や学校関係者、自主防災組織関係者等が参画し、地域が一体となって取り組む防災教育の視点にたった青少年の体験活動を推進する。
- 県内二会場で行う学校等での避難所生活模擬体験を含む2泊3日または1泊2日のキャンプでは、それぞれ液状化現象災害及び津波災害を想定した防災教育プログラムと、放射線の正しい理解を促進するプログラムを実施する。
- 参加する青少年が主体的に活動できるプログラムや場面を設定するとともに、事前にリーダー研修会や事業説明会を開く。



簡易担架

1. 企画

(1) 事業実施の背景

愛媛県では、南海トラフ巨大地震等に備えた県民の安全・安心の確保を最優先に取り組むこととしており、避難路の改修等の支援や、県立学校校舎等の耐震化を前倒して実施するなどハード面の整備を充実させている。また、児童生徒等の発達段階に応じた「自助から共助への防災教育」を県下全域に推進するとともに、地域との連携による総合的な防災力の強化を図るなど、災害対応力を強化するソフト面の充実にも力を入れている。

(2) ねらい

愛媛県の地形上の特性や地域の課題から、二つの地域で液状化現象災害、津波災害を想定した被災時の対応を体験的に学ぶ防災プログラムを実施し、防災教育の視点にたった青少年の体験活動を推進する。

2. 事業概要

(1) 運営体制

- 愛媛県教育委員会が防災関係部局と連携しながら事業を推進する。
- 二つの会場で実施する防災キャンプは、県教委の地方機関である各地域の教育事務所で実施した。
- 防災キャンプの実施にあたっては、学校関係者、行政関係者、社会教育団体、自主防災組織等からなる現地実行委員会を組織し、協議しながら質の高いプログラムを提供するとともに、地域住民の積極的な参加を得て充実した事業の実施に努めた。
- 防災キャンプにおいてリーダーとしての役割を果たすことができるよう、中高生を対象とした事前リーダー研修会を実施する他、防災キャンプのプログラムにおいて青少年が自ら考え主体的に活動できる場を十分に設定した。
- 防災キャンプ実施地域で現地説明会を開き、本事業の内容や意義について、地域住民等関係者への周知を図るとともに理解を深めた。
- 県教育委員会及び各教育事務所は、防災フォーラムを開催するとともに、Webを活用して防災キャンプのPRや実施状況等を広報し、本事業の内容及び成果を広く普及啓発した。

(2) 開催実績

月 日	内 容
平成26年6月3日	第1回防災キャンプ推進事業担当者会
6月9日	南予地区青少年防災キャンプ第1回実行委員会
6月12日	東予地区青少年防災キャンプ第1回実行委員会
6月24日	南予地区青少年防災キャンプ事前説明会
7月9日	南予地区青少年防災キャンプ第2回実行委員会
7月29日	東予地区青少年防災キャンプ第2回実行委員会
7月29日	東予地区青少年防災キャンプ事前リーダー研修会
8月1日～3日	東予地区青少年防災キャンプ(新居浜市高津公民館)
8月21日～22日	南予地区青少年防災キャンプ(伊方町立三崎小学校)
8月29日	南予地区青少年防災キャンプ第3回実行委員会
9月9日	青少年防災体験フォーラム実行委員会
10月10日	第2回防災キャンプ推進事業担当者会
11月28日	青少年防災体験フォーラム事前準備
11月29日	青少年防災体験フォーラム(愛媛県総合科学博物館)

オ 活動の様子

《1日目》

◆受付・開会行事

「夕方6時に地震が発生し、公民館に避難する」との設定で防災キャンプが始まった。受付を済ませた後、多目的ホールに集合し、グループごとに整列した。早く集まったグループはお互いに自己紹介をし合い、その後、開会行事を行った。開会行事では、開式の言葉を運営審議会委員長が宣言した後、参加児童とボランティアの代表が決意発表を行った。



公民館玄関で受付



多目的ホールでの開会行事



代表者による決意発表

◆体験活動1「被災・避難直後の対応を学ぶ」

講師：新居浜市防災安全課

防災情報係長 高橋 直樹

「避難所運営ゲーム(HUG)の実践」 講師：中予教育事務所社会教育課

社会教育主事 瀬岡 雅人

◆体験活動2「避難所の約束を考える」

まず初めに、災害が起きた直後の行動や避難所に避難してきた場合に気を付けることや大切なことなどを学習した。その後、避難所運営ゲーム(HUG)を行った。避難者をカードに見立て、避難所の設備や大きさを書いた用紙に適切に配置し、思考力と判断力を養った。子どもなりに意見を出し合い、練り合いながらより良い方法を考えようとする姿勢が見られた。また、避難所でのグループの合言葉を考え、掲示した。



避難所生活について学ぶ



避難所運営ゲームの実践



班の合言葉を決める

《2日目》

◆体験活動3「生活不活発病予防の運動」 講師：日本レクリエーション協会 小田原一記 宮城県レクリエーション協会 山内 直子

2日目の朝には、避難所での健康管理も兼ねて、実際に宮城県の被災地でレクリエーション活動を行っている「日本レクリエーション協会」の方2名に講師をお願いし、避難所でできる活動で心と体をほぐした。また、実際の避難所での体験から、避難所での運動や睡眠をとることの重要性等についてもお話を聞いた。



避難所での生活について



じゃんけん遊び



タオルを使って

◆体験活動4「災害時の対応を学ぶ」 講師:新居浜市消防本部署員
高津消防分団員

朝から警報が発令されたため、予定していた屋外での活動を一部変更し、高津小学校体育館、教室及び中庭で、「救助体験」「消火・煙体験」「救急体験」の3つのブースに分かれて体験活動を行った。それぞれの活動では、のこぎりやジャッキを使っての障害物除去訓練、水消火器での消火訓練、煙ハウスでの避難体験、タンカや三角巾を使っての応急処置の仕方等を体験した。



救助体験



消火・煙体験



救急体験

◆体験活動5「放射線を正しく知ろう」 講師:愛媛大学総合科学研究支援センター
准教授 増田 晴造

「放射線と放射能の違い」「汚染と被曝の違い」「簡易測定器を使った放射線量の測定方法」について、分かりやすく話していただいた。また、簡易測定器を使い身の回りの放射線を測定したり、「霧箱の実験」で放射線の飛跡を実際に観察したりするなど体験活動も行った。子どもたちも興味をもって参加できる内容で、一緒に参加した保護者やスタッフ、一般参加者にとっても、放射線について正しく知るよい機会となった。



放射線についての講義



簡易測定器を使った測定



霧箱を使った放射線の観察

◆体験活動6「水浴体験」 ※雨天により未実施

◆体験活動7「震災から学ぶ」 講師:石井 一成、永易 英寿、田中 實

荒天のため、プログラムを入れ替え、時間を2パートに分けて「震災に学ぶ」を実施した。自然災害の救助活動に参加した地域の方や高津地区に長年居住している方から、過去に新居浜市で起こった災害や救助活動の様子、また昭和21年の南海地震の体験談についてそれぞれ話を聞いた。



緊急消防救助隊として



災害ボランティアについて



南海地震の記憶

◆特別体験「防災グッズをつくろう」

雨天のため、体験活動6「水浴体験」が実施できなかった。プログラムの実施に余裕が生まれたため、急遽、参加者全員の交流活動と防災グッズ「新聞スリッパづくり」の活動を行った。

交流活動では、スタッフや一般参加者との人間関係づくりのゲームを行ったり、キャンプの感想発表をしたりした。スリッパづくりでは、自分たちで簡単に防災グッズが作成できることを実感した。



避難所交流活動



新聞紙を使ったスリッパづくり



スリッパが完成した様子

《3日目》

◆体験活動8「液状化について知ろう」

講師：愛媛県総合科学博物館学芸課長 千葉 昇

初めに、地震の揺れによるものと液状化によるものとは建物の被害が違うことや液状化が起こる仕組みについて話を聞いた。その後、ペットボトルやポップコーンを用いた実験道具を使って、液状化現象の起こる仕組みを体験し、理解を深めた。



液状化についての講義



液状化の仕組みの実験1



液状化の仕組みの実験2

◆体験活動9「高津地区を見学しよう」

講師：高津公民館長 柴田晋八郎

液状化の講義の後、水害に備えて設置されている地域の雨水ポンプを見学し、その仕組みや役割について学んだ。また、川に流されているゴミの影響でポンプとしての機能が十分に発揮されていない状況についても聞いた。

その後、地域に流れる2級河川国領川の河川工事の様子についても見学し、災害に備えて行政が取り組んでいる様子についても学習した。



雨水ポンプの見学



ポンプ場にたまるゴミの様子



河川工事の様子の見学

【南予地区青少年防災キャンプ】

(1)運営体制

ア 実行委員会組織

三崎小学校PTA会長、三崎小・三崎中学校職員、三崎地区自治会長、三崎地区老人会長、消防団長、三崎公民館長・主事、八幡浜消防署第一分署長、伊方町危機管理室、社会教育課、防災アドバイザー

イ その他の関係団体

自衛隊愛媛地方協力本部、ボーイスカウト八幡浜第1団、日本赤十字社愛媛県支部、消防防災航空隊、NTT西日本愛媛支店

(2)実施内容

ア 事前説明会

(ア) 日 時 平成26年6月24日(火)15:00～16:00

(イ) 場 所 三崎小学校・三崎中学校

(ウ) 参加者 三崎小学校職員・保護者、三崎中学校生徒・職員

(エ) 内 容

・事業の目的 ・日程 ・ボランティアの役割 ・昨年度の様子 ・質疑応答

イ 青少年防災キャンプ

(ア) 日 時 平成26年8月21日(木)～22日(金)

(イ) 場 所 伊方町立三崎小学校

(ウ) 参加人数 112人(小学生36人、中学生18人、保護者・地域住民18人、スタッフ40人)

(エ) 日 程

1日目【8月21日(木)】

10:00 10:45 11:00 11:30 12:30 13:30 15:30 17:00 19:00 20:00 21:30 22:00

受付	開 会 式	オリ エン テー ション	避難所 設営	昼食 備蓄食	・三崎中 事例発表 ・煙幕体験	防災すごろく ／DIG(災害 図上訓練)	防災に役立 つ野外体験 活動(夕食含 む)	パーテ ー ション 設置	夜間避難訓練	反省 会	消灯 就寝
----	-------------	-----------------------	-----------	-----------	-----------------------	----------------------------	--------------------------------	-----------------------	--------	---------	----------

2日目【8/22日(金)】

6:30 7:30 8:30 9:30 11:30 12:30 14:00 14:30 15:00

ラジオ体操・ 朝食	片付け	津波避難訓練 (地域の危険箇 所点検と避難路 の確認)	・応急処置 ・被災地支援活動 ・リラクゼーション	昼食 備蓄食	防災ヘリ 人命救助訓練	ま と め	閉 会 式
--------------	-----	--------------------------------------	--------------------------------	-----------	----------------	-------------	-------------

(オ)活動の様子

《1日目の主な活動》

◆防災すごろく・DIG(災害図上訓練)

対象年齢で2つに分けて各プログラムを実施。1～4年生は、防災すごろくによる学習。5・6年生、中学生、一般の方は、DIG(災害図上訓練)を実施した。

◆防災に役立つ野外体験活動

火起こし、アルミ缶を使った炊飯、ドラム缶風呂等を体験した。

◆夜間避難訓練

班ごとに要援護者が一人いることとし、懐中電灯1本で真っ暗な校舎の中に用意した障害物を避けながら避難訓練を実施した。暗がりの中を要援護者と一緒に避難するという初めての体験で多くの学びがあった。



バケツリレー



煙幕体験



防災すごろく



DIG災害図上訓練



アルミ缶を使った炊飯



夜間避難訓練

《2日目の主な活動》

◆危険箇所点検

三崎小学校避難経路の点検に出かけた。防災アドバイザーから、私たちが普段見逃しがちな危険箇所について指導があった。途中の備蓄倉庫には、組み立て式のリアカーが整備しており、実際に組み立てて使ってみることができた。

◆身近なものを使った応急手当

松山赤十字病院の高須賀先生による実技指導。パンティストッキング、牛乳パック、ガムテープ等を使った応急手当の方法を学習した。被災地では、被災者とともにリラクゼーションを促進することが大切であることも学んだ。

◆公助の仕組みについての理解

東日本大震災時に実際に支援活動に携わった自衛隊の方から説明を受けた。参加者は遺体捜索の様子や被災者の方々とのやりとり等の話に真剣に耳を傾けていた。また、午後からは、消防防災ヘリによる人命救助訓練の様子を見学した。父親がこのヘリで働いている児童がいて、参加者の興味・関心が一層高まった。



ラジオ体操



身近なものを使った応急手当



危険箇所点検



自衛隊車両への体験試乗



NTT災害伝言ダイヤル



防災ヘリ人命救助訓練

4. 普及啓発の実施概要

【青少年防災体験フォーラム】

- (1) 趣旨：保護者や地域住民・自主防災組織等の防災関係者等を対象としたフォーラムを開催し、防災キャンプの成果を広く県内に普及啓発するとともに、体験的な防災教育の推進を図る。
- (2) 日時：平成26年11月29日(土) 9:30～12:00
- (3) 場所：愛媛県総合科学博物館 多目的ホール
- (4) 参加人数：139人
- (5) 参加対象：PTA、地域住民、学校関係者、自主防災組織等の防災関係者、社会教育関係者、行政関係者等
- (6) 日程
 - ・ 9:30～ 開会行事
 - ・ 9:45～ 講演：「地震火災・津波・土砂災害に備えるための各種シミュレーションについて」
講師：愛媛大学防災情報研究センター准教授 二神 透 氏
 - ・ 10:45～ シンポジウム テーマ「生きる力を育む防災教育を考える」
【報告者】東予教育事務所社会教育課教育専門員 渡邊 靖
南予教育事務所社会教育課社会教育主事 中本 克也
新居浜市高津公民館長 柴田晋八郎
伊方町立三崎小学校長 鎌田 宏和
高校生ボランティアサークル「May」代表 山口 春風
【進 行】中予教育事務所社会教育課社会教育主事 瀬岡 雅人
・ 11:55～ 助言 愛媛県教育委員会生涯学習課青少年係係長 高智 義一

【防災キャラバンIN伊方町】

- (1) 趣旨：町民の防災意識の普及と高揚を図る。
- (2) 日時：平成26年9月7日（日）
- (3) 場所：伊方町生涯学習センター5階大ホール
- (4) 参加人数：約100人
- (5) 参加対象：学校関係者、行政関係者、自主防災関係者等
- (6) 日程
 - ・ 10:00～ ・ 受付、開会行事
 - ・ 10:30～ ・ 講演：「愛媛県の被害想定と伊方町の減災について」
講師：愛媛大学防災情報研究センター准教授 二神 透 氏
要旨：○ 今後30年以内の海溝型巨大地震の発生確率は非常に高い。
○ 様々な状況をイメージしながら対策を立てる必要がある。
○ 行政に頼らず、家庭で備える。
 - ・ 11:30～ ・ 事例発表 「三崎小学校 地域ぐるみの青少年防災キャンプ事例発表」
・ 発表者 8月21日～22日に伊方町立三崎小学校で開催された青少年防災
・ 概要：キャンプの取組について、効果的なプログラム、参加者の意識の変容、中学生ボランティアの活躍、地域の結びつきの大切さなどについて報告があった。
 - ・ 11:50～ ・ 閉会行事

【実践事例集の発行】

- (1) 趣旨：本事業の実践をまとめた冊子を発行し、県内及び関係機関に普及啓発する。
- (2) 発行時期：平成27年2月
- (3) 発行部数：1,200部
- (4) 配布先：県内の全小中学校、全公民館、都道府県教委、各市町教委、関係団体 等

5. 成果と課題

(1) 事業成果

ア 成果

○地域の実情に応じた防災プログラムを設定したことにより有意義な防災キャンプが実施でき、参加者から高い評価を得た。また、参加者が被災時の自助・共助の在り方や重要性について認識することができた。

○キャンプ後に家庭で防災活動や非常時の避難などについて子どもたちが家族で話し合う機会をもつようになり、防災キャンプは子どもたちにとって災害や防災に対する意識を向上させる生きた学習となった。

○キャンプでは地域の中高生が子どもたちのリーダーとして年少者を指導するなどして活躍し、運営面で大きく貢献した。このことにより、キャンプに参加した地域住民が、地域の若い力の頼もしさを認識するとともに、中高生自身も地域における自分たちの役割や責任を自覚し、被災時には地域の主役にならなければならないという意識をもつ者も出てきた。

○過去2年間の反省に立ち、防災キャンプの対象地域において事前説明会を実施したことにより、参加者の事業や活動内容に対する理解が深まり、キャンプに参加する主体性を高めることができた。

○フォーラムでは、研究者・学校関係者・行政関係者・公民館長・中高生などの様々な立場から、理論・実践の両面での講演や実践発表があり、参加者の高い評価を得た。また、青少年の体験活動の推進や防災・減災の取組などについて、地域ぐるみで今後の方向性を考えることができた。

○実行委員会での協議、キャンプやフォーラムの運営などをとおして、地域で青少年の防災教育に取り組む機運が醸成されるとともに、地域住民と子どもたちや学校・行政関係者、あるいは地域住民どうしの交流がなされ、地域における絆が深まりを見せた。また、地域がこれまでの地域防災の取組を見直す契機となった。

イ 参加者の感想

《青少年防災キャンプ》

○災害時に自分に何ができるのか改めて考えさせられた。これから起こるかもしれない災害に向けて更なる知識を蓄えていきたい。

○キャンプを終え、災害が起こっても適切な行動できる人になりたいと思った。特に勉強になったのは救助体験の活動であり、がれきの中でも「私にもできることはある」と思った。

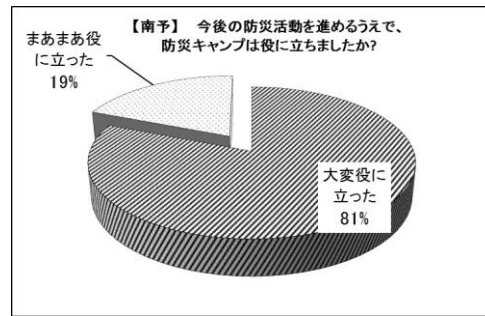
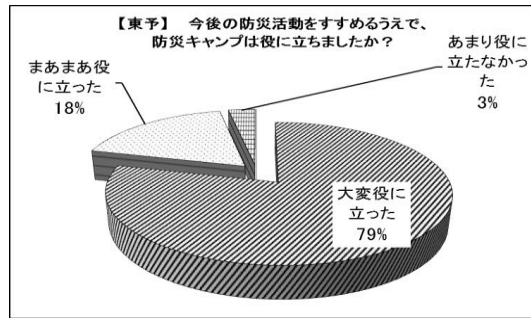
○指導者は、指示を最小限にとどめ、一つ一つの活動のねらいを考え、自主的に判断させる場面を多くとるとよい。

《青少年防災体験フォーラム》

○様々な資料を基に、分かりやすいシミュレーションを見せていただき、防災の意識が高まるとともに、避難所としての施設の機能を最高レベルまで上げなければならないと思った。

○災害直後は公助が期待できないため、今回のように地域主体による自助・共助の力を付ける活動が大切であると再認識した。自主防災組織の活動が活発になってきているが、今後ますますの学校と地域、地域の人々のつながりを強めていく必要があると思う。

ウ アンケート結果



(2) 事業運営上の課題・留意点

○キャンプにおいては、活動の有効性を高めるために、子どもたちが主体的に考え活動するプログラムを更に多く設定するとともに、参加者どうして活動を振り返りながら意見交換し交流する時間を設定することが必要である。

○模擬避難所生活に、外国人、幼児連れの方、障がいをもつ方など、様々な立場の人の参加があれば、他者に配慮すべき点が明らかになり学習がより深まる。

○本事業の過去の実施地域が、事後どのように防災教育に取り組んでいるかについて、フォーラムにおいて報告があると、本事業の継続的な取組について関係者の意識が高まる。

(3) その他

○県ではなく、市町や学校・公民館が主体となって防災キャンプを実施する可能性がある。

○非常時に主体的に行動できるための体験活動は、対象を青少年に限らず、幅広い年齢層に対して計画的に進めていかなければならない。

○本事業を通して、地域ぐるみの防災の大切さやその基本となる個人の防災意識の大切さを参加者に伝えることができた。

○少子高齢化や核家族化等により、社会が大きく変わる中、防災・減災を進めていく地域コミュニティの再生が不可欠である。子どもから大人まで地域住民が一体となって地域防災に取り組む必要がある。

6. 団体プロフィール

○愛媛県教育委員会生涯学習課青少年教育係

TEL089-912-2934

○東予教育事務所社会教育課

TEL 0897-56-1300(内458)

○中予教育事務所社会教育課

TEL 089-909-8780(内456)

○南予教育事務所社会教育課

TEL 0898-22-5211(内458)



〈炊き出し体験〉